

サオ語における状態性を表す接辞 ma-について

新居田 純野

ma-prefix in the Thao language

NIIDA Sumino

Abstract

This paper is concerned with ma-prefix in the Thao language. I have analyzed the function of the prefix and examined several of its aspects by some examples I collected from the informants.

The ma-prefix has been classified as a stative prefix, with the words that use this prefix acting as adjectives. The feature of ma-suffix is as follows: it cannot interact with the focus affix and the causative affix, and it cannot co-occur with the past affix. Some verbs with very low transitivity can be attached with the ma-prefix.

1. はじめに

台湾中部の日月潭周辺に住む台湾原住民サオ族は2001年に台湾の行政院によって公式に認知された「第10番目の原住民」である。その言語、サオ語¹⁾はオーストロネシア語族に属する。サオ族の人口は現在約六百人余りである。また、現在では、日常生活に使用する言語は主に台湾語と中国語であり、サオ語を話せる人は70代以上に限られた少数であり、サオ族同士の会話の中に時々サオ語が使用される程度である。

本稿では、そのサオ語において状態性を表す接辞 ma-²⁾がどのような文法的機能、語彙的意味を提示するのかに注目して、ma-接辞のつく語のもつ状態性および他動性から、ma-接辞について分析をおこなうこととする。

2. ma-接辞

ma-接辞は、基本的には日本語の形容詞相当の意味を持つ語根について状態性を担う接辞である。また、動詞相当の意味を持つ語に、非実現を表す a と共起してつくことで、未来の動作を表す。

2.1 形容詞相当の語につく ma-接辞

ma-接辞が状態や属性、感情などを表す語につくことで、形容詞相当の働きを担う。次の表は、ma-接辞の付く形容詞相当の語を、分類したものである。

表1 ma-接辞がつくことで実現される意味的内容からの分類

状態／属性	ma-rutaw (高い)、ma-quliwsh (長い)、ma-daqri (滑らかな)、ma-biskaw (速い)、ma-haran (広い)、ma-tarithtith (鈍い)、ma-puthum (不潔な)、ma-sinis (ねばねばしている)、ma-lhias (明るい)、ma-kushtur (厚い)、ma-kapa (浅い)、ma-bazay (薄い)、ma-tithi (冷たい)、ma-tata (熱い)、ma-qtit (狭い)、ma-brith (重い)、ma-kutnir (固い)、ma-zangqaw (軽い)、ma-qayzu (臭い)、ma-lamlam (鋭い・とがった)、ma-fazushfush (ざらざらしている)、ma-walhnaq (うるさい)、ma-daydaz (仲がいい)、ma-bariz (平均がとれている)
人の属性	ma-kundur (勇敢な・丈夫な)、ma-shumal (いたずらな)、ma-dundun (可愛い・親切な)、ma-qaymuth (けちな)、ma-ania (利口な)、ma-pusi (正直ではない)、ma-kushwit (強い)、ma-hulaw (声がしゃがれている)
色	ma-dishlum (青・緑)、ma-qusa-qusum (黒)、ma-puji (白)、ma-qulha (赤)
気候	ma-walhuuz (暖かい)、ma-hinar (暑い)、ma-pinar (蒸し暑い)、ma-haziwhiw (涼しい)、ma-shimzaw (寒い)
感情・感覚	ma-kashpar (痛い)、ma-salpu (悲しい・懐かしい)、m-ayaw (恥ずかしい)、ma-qaran (うれしい)、ma-kimzi (くすぐったい)
変化の結果	ma-dumur (湿っている)、ma-puthum (散らかっている)、ma-lhalhas (ご飯が炊けた)、ma-tapan (つぎがあてである)、ma-tubu (濡れている)、ma-puthum (草が繁茂している)、ma-qiriz (疲れている)、ma-ramu (太っている)、ma-shi-qarman (痩せている)、ma-buqthiw (腹いっぱい)、ma-shuru (腹が減っている)

- (1) fizfiz ma-qitan バナナがおいしい。
バナナ ma-よい
- (2) ma-rutaw a hudun 高い山
ma-高い a 山
- (3) ma-qitan haya wa baruku この器はよい。
ma-よい この a 器
- (4) nak a hulus ma-dumur-uan 私の服はまだ湿っている。
2 単属 a 服 ma-湿る-まだ
- (5) nak a shanglaw ma-thuaw ma-puthum 私の野菜は密集している。
2 単属 a 野菜 ma-とても ma-密集している

シテ焦点形のつく動詞と比較すると、ma-接辞のつく形容詞は以下の点が異なる。

① ウケテ焦点接辞-in とバシヨ焦点接辞-an

サオ語の接辞にはウケテ焦点形 (PF 形: Patient Focus) があり、いわゆる動詞は、接尾辞-in によって受動態に相当するウケテ焦点形が作られる (用例(6)(7))。これを他動性の観点 (新居田 2007: 71) からみると、他動性が低くなるとウケテ焦点形が作られにくくなるという傾向があり、他動性のない ma-接辞のつく形容詞はウケテ焦点形になることができない。同様に、バシヨ焦点形 (LF 形: Locative Focus) をつくる-an 接辞(8)(9)も、ma-接辞のついた形容詞にはつかない。

a. ウケテ焦点形

- (6) yaku tipish-in ihu
 1 単主 ぶつかる-PF 2 単主
 あなたは私にぶつかる。(私はあなたにぶつかられる。)
- (7) yaku riqaz-in ihu
 1 単主 見る-PF 2 単主
 あなたは私を見る。(私はあなたに見られる。)

b. バシヨ焦点形

- (8) thithu kutafalh-an suma 彼はだれかに刺された。
 3 単主 さす-LF 誰か
- (9) nak a rikus flhuq-an ihu あなたは私の背中を洗った。
 1 単属 a 背中 洗う-LF 2 単主

② 過去を表す接辞-in-

一般的に動作性のある語には、接辞-in-がつくことで、過去の動作を表す(用例(11)(12))ことができる。しかし、ma-接辞のつく単語には、過去を表す接辞-in-がつかないが、完了を表す iza をつけることで、その状態に変化したことを表す(用例(10)(13)(14))ことができる。

- (10) ma-qitan-iza ma-kapa-iza ma-shimzaw-iza
 ma-よい-完 ma-浅い-完 ma-寒い-完
 よくなった 浅くなった 寒くなった
- (11) yaku k-in-alawa huya wa pangka 私はその椅子を作った。
 1 単主 作る-過 その a 椅子
- (12) k-in-alawa-iza yaku sa pangka 私はもう椅子を作った。
 作る-過-完 1 単主 sa 椅子
- (13) ma-shimzaw-iza wa qali もう寒くなった。
 ma-寒い-完 a 日
- (14) mu-apaw-iza tilhaz, ma-lhias-iza 太陽が出て、明るくなった。
 動-出る-完 太陽 ma-明るい-完

③ 使役の接辞

動作動詞の多くは pa-接辞、あるいは pu-接辞がついて使役形(用例(16))となるが、ma-接辞のつく単語の一部は pia-接辞に交代することによって使役形となることができ、ウケテ焦点接辞の-in をつけることができる(用例(15)(17)(18))ようになる。

- (15) qitan : ma-qitan 使役形 : pia-qitan ウケテ焦点形 : pia-qitan-in
 よい よい よくする よくされた

- (16) yaku pa-kalawa suma pangka 私はある人に椅子を作らせた。
1 単主 使-作る 誰 椅子
- (17) thaythuy pia-qitan k-m-alawa taun 彼らは良い家を建てた。
3 複主 使-よい 作る-AF 家
- (18) huya wa taun a pia-qitan-in thaythuy k-m-alawa
その a 家 非現実 使-よい-PF 3 複主 作る-AF
彼らはその家を修理した。

④ min-接辞³

ma-接辞が状態性を担う単語は、ma-接辞を min-接辞に交代することで動作性を持たせることができる場合があり、完了の iza が共起する場合が多い。

- (19) min-pusi (正直ではない)、min-lhaqraw (痛む)、min-buqnur (怒る)
- (20) nak a hulus min-dumur 私の服は湿った。
単属 a 服 起-湿った
- (21) nak a buhut min-puthum-iza 私の畑は密集してはえた。
1 単属 a 畑 起-密集している-完
- (22) min-shimzaw-iza wa qali 寒くなり始めた。
起-寒い-完 a 日

2.2 ma-接辞がつかずに状態性を表す場合 (φ接辞)

Blust (1998) では、動詞のシテ焦点形における接辞-/um/-のおかれる位置は形態音韻的条件によるとして、語幹、語頭の音が/c//h//k//lh//q//s//sh//t/の場合シテ焦点形をあらわす接辞は-/m/-、/a//i//l//r//u//z/の場合は/m/-、その他の場合はφになるとしている。しかし、状態を表す形容詞相当の語でも ma-接辞がつかない場合があるが、以上のような形態音韻的条件は適用されない。

φ接辞の形容詞

- (23) sasaz (古い)、luish (短い)、sh-kuda (難しい)
- (24) haya wa taun sasaz-iza この家はもう古くなった。
この wa 家 古い-完
- (25) haya klhiw ma-thunaw luish このひもはとても短い。
この ひも ma-とても 短い

2.3 他動性の低い動詞につく ma-接辞

本来他動性の高い動詞に m-接辞、-m-接辞がついてシテ焦点形 (用例(26)(27)) となるが、他動性の低い動詞のシテ焦点形を受け持つ ma-接辞 (用例(29)(30)(31)) がある。

- (26) yaku k-m-upit apuy 私は火を消す。
1 単主 消す-AF 火

- (27) yaku m-riqaz ihun. 私はあなたを見る。
1 単主 AF-見る 2 単対
- (28) ma-fazaq (知る、できる)、ma-tunaw (勝つ)、ma-taqaz (肩に担ぐ)、
ma-laia (走る)、ma-tamuhun (帽子をかぶる)、ma-pathay (喧嘩する)、
ma-panaq (戦争する)、ma-hawhaw (ささやく)、ma-lalawa (叫ぶ)、
ma-sapuk (捕まえる)、ma-rfaz (飛ぶ)、ma-buqnur (怒る)、ma-supish (読む)
- (29) yaku ma-fazaq mihu a lhanaz 私はあなたの名前を憶えている。
1 単主 AF-憶えている 2 単属 a 名前
- (30) yaku ma-buqnur haya wa atu.
1 単主 AF-怒る この a 犬
私はこの犬を怒った。(私はこの犬が嫌いだ)
- (31) yaku tu kahiwan in-i-tusi Shtafari ma-supish patashan
1 単主 tu 昔 過-場-あそこ 頭社 AF-読む 本
以前私は頭社で勉強した。

2.4 非実現(未来)を表す a+ma-接辞

動作性動詞に非実現を表す a が共起した ma-接辞がつくと、未来にその動作が起こりうることを表す。

- (32) ya simaq a ma-rubuz taun 明日、家を壊すだろう。
もし 明日 非 ma-壊す 家
- (33) ya simaq painan a ma-riqaz ihun 明日多分あなたを見るだろう。
もし 明日 多分 非 ma-見る 2 単対
- (34) thithu a ma-shkash 彼は恐れるだろう。
3 単主 非 ma-恐れる

接辞 ma-が未来(将来起こりうる可能性があること)をあらわす場合は、未来においてそれぞれの動詞があらわす行為が非実現の場合である。つまり、非実現というのはその動作をまるごと捉えて考えているからであり、そのように捉えられたひとまとまりの行為は、状態に非常に近いものとして認識されて ma-接辞が現れるのではないかと筆者は考える。

3 おわりに

本稿では、サオ語の ma-接辞の機能を状態性と他動性という観点からみてきたが、以上をまとめると表2のようになる。これまで、ma-接辞は状態接辞であり、非実現の a がつくことで未来を表すとされているが、本稿では状態接辞として機能する ma-接辞は焦点接辞、使役接辞と交代できないこと、また過去接辞が共起できないこと、変化の結果を表すためには、完了の iza がその働きを受け持つことなどの特徴を明らかにした。

表2 ma-接辞の文法的機能

ma-接辞のつく語	文法的機能	例
形容詞語根	状態性を提示	ma-qitan (よい)、ma-rutaw (高い)
動詞語根	他動性が低い：シテ焦点形	ma-buqnur (怒る)、ma-fazaq (知る)
	他動性が高い：未来形	a-ma-kan (食べる) など多数

注

- ¹ 本稿で用いるローマ字表記は、子音は p, b, m, f, t, d, n, th[θ], s, z[ð], lh[h], l, r, sh[ʃ], k, ng[ŋ], q, h, y, w, / [glottal stop] である。母音は /a, u, i/ の三つだが、/i/ は /q, r/ と連続するとき [e]、/u/ は /q, r, ng/ と連続するとき [o] となる。/b, d/ の前と、語頭・語尾の母音は glottal stop が現れるが、本稿では、表記を省略した。アクセントは基本的には後ろから二つ目の母音におかれるが、いちばん最後の母音におかれる場合もある。
- 本稿で使用した略記号は以下の通りである。AF: actor focus (シテ焦点)、PF: patient focus (ウケテ焦点)、LF: locative focus (バシヨ焦点)、過: 過去、使: 使役、起: 起動接辞、存: 存在動詞、移: 移動接辞、否: 否定、主: 主格、対: 対格、属: 属格、単: 単数、複: 複数、1: 1 人称、2: 2 人称、3: 3 人称、連: 連結辞、非: 非実現、助: 助辞、状: 状態接辞、未: 未来接辞、場: 場所接辞、完: 完了、重: 重複、接: 接続詞、副: 副助辞、命: 命令、
- ² 黄 (2000: 92-105) ではシテ焦点形の接辞は m-, ma-, -m-, -um-, -un-, φ で、習慣的なできごと、進行中のできごと、すでに発生したできごとの三つの実現を表すとし、Blust (2003) では、ma-接辞は動詞についてシテ焦点形 (AF)、あるいは状態性を表し、非実現の a と共起することで future を表すとしている。
- ³ Blust (2003: 132) では、min- は inchoative (起動相) としている。

【参考文献】

- Hopper, Paul J. & Sandra A. Thompson (1980) Transitivity in grammar and discourse. *Language* 56: 251-299.
- 角田太作 (1991) 『世界の言語と日本語』 東京: くろしお出版
- Blust, Robert (1998) A note on the Thao patient focus perfective. *Oceanic Linguistics* 37: 346-53.
- 黄美金 (2000) 『サオ語参考語法』 (台湾南島語言 4) 台湾: 遠流出版公司
- Blust, Robert (2003) Thao Dictionary. *Institute of Linguistics Academia Sinica*
- 新居田純野 (2005) 「サオ語の動詞について - 他動性の観点から -」 『日本言語学会第131回大会予稿集』: 296-301
- 新居田純野 (2007) 「サオ語 (台湾) における焦点接辞と二項述語階層」 『他動性の通言語的研究』: 66-78: くろしお出版

[付記] 本稿は2010年 - 2012年度文部科学省科学研究補助金 (基盤研究C 課題番号22520452 『危機言語サオ語 (台湾中部) の記述研究及び仮名で記録されたサオ族伝承物語の分析』) の助成を受けている研究に基づく。